

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 6 日現在

機関番号：32660

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2016

課題番号：15K13241

研究課題名(和文) データベースト・カウンセリング&ガイダンスシステムの開発研究

研究課題名(英文) Development of Data Based Counseling and Guidance System

研究代表者

八並 光俊 (YATSUNAMI, MITSUTOSHI)

東京理科大学・教育支援機構・教授

研究者番号：70210284

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、いじめ防止対策推進法に基づくいじめ情報管理データベースシステムの開発を目指している。同システムを、データベースト・カウンセリング&ガイダンスシステムと呼称する。略称は、DB_CGSである。主な研究成果は、次の通りである。第1に、DB_CGSはいじめ事案概要報告データベース、いじめ防止教育データベース、いじめ介入データベース、証拠データベースを含んでいる。第2に、DB_CGSの試行評価を行った。試行評価は、10人の中学校および高等学校のベテラン教師によって実施された。その結果、実用性、有効性、操作性、機密性において高い評価を得た。

研究成果の概要(英文)：The aim of the study was to develop the bullying response database for law of preventing bullying at school. That database system was named Data Based Counseling & Guidance System. The abbreviated name was DB_CGS. The findings are as follows. The first, DB_CGS included case summary database, bullying prevention education database, intervention database and evidence database. The second, DB_CGS was to evaluate trial use. The evaluation was carried out by ten veteran junior high school and high school teachers. We got a high evaluation in utility, effectiveness, operability, secrecy in result of trial evaluation.

研究分野：生徒指導

キーワード：いじめ いじめ防止対策推進法 生徒指導 データベース

1. 研究開始当初の背景

いじめ防止対策推進法（文部科学省，2013年，以下「いじめ防対法」と略）が公布された以降も，学校現場のいじめの認知件数は約18万6千件（文部科学省，2014）と極めて高い。各自治体，教育委員会，学校は，いじめ防対法に依拠して地方および学校いじめ防止基本方針の策定やいじめ防止等の組織を設置している。

しかし，2015年に岩手県で中学校2年生の男子生徒がいじめを苦に自死した報道（毎日新聞，2015）では，当該学校ではいじめ防対法に従った組織も早期発見の手立て整備していたにもかかわらず，担任教師からのいじめ被害の報告がなかった。つまり，組織や方針という外形はできていたが，情報共有ができていなかった。

また，いじめ防対法以降のいじめ事件では，いじめ被害児童生徒の保護者が，警察に被害届を出す，あるいは弁護士を代理人として民事訴訟を起こしている。瀬戸（2014，P.10）が指摘したように，学校現場に「法化現象」が広がり，「学校教員としての行動や対応，そして把握した事実を一つひとつ整理し記録し，それを法規に照らして見解をまとめる」との法的作業が必要になってきている」のである。

いじめの早期発見，早期対応・解決において，いじめ防対法に対応した正確な情報収集と情報共有が重要である。すなわち，いじめに関する情報管理システムの構築が，今後の学校現場での喫緊の課題である。

2. 研究の目的

本研究では，学校におけるいじめの防止等の対策のための組織（同上法第22条）が，学校におけるいじめの防止（第15条），いじめの早期発見のための措置（第16条），関係機関等との連携等（第17条），いじめに対する措置（第23条）および第5章「重大事態への対処」に関連する情報を管理する総合的なデジタル情報管理システムの開発を目指している。

本研究では，開発するデータベースの総体を「データベース・カウンセリング&ガイダンスシステム」と呼称する。略称として，DB_CGSを用いる。DB_CGSの最大の特徴は，教員が日頃Web情報の検索に使用しているブラウザを用いて，DB_CGSにアクセスできる点にある。

DB_CGSは，スタンドアロンのノートPCに主にデータベース・ソフトウェアを用いて構築され，いじめ情報の入力，検索，レポート出力等を前提としている。検索結果やレポートは，諸会議時においてノートPCとプロジェクトを接続し，DB_CGSを用いて整理された情報をスクリーンやホワイトボードなどに投影することを想定している。なお，以下では「データベース」をDBと略記する。具体的には，次の3点である。

(1)ブラウザベースのDB_CGSポータルを構築する。

(2)いじめ防止教育DB，事案概要DB，事情聴取DB，証拠画像DB，チーム援助シートDB，チーム援助モニタリングDB，セキュリティ対策の開発を行う。

(3)開発したDBシステムの試用評価を行い，有効性について検討を行う。

3. 研究の方法

(1)DB_CGSを構成する主要DBの開発では，管理工学研究所の桐10（以下，「桐」と略）を使用した。桐の選定に際しては，教育現場でのDBの普及の低さと教員のICT能力の両方から検討している。

第1に，桐はExcelライクで，直感的な操作が可能である。第2に，短期間の校内研修で，基本的知識や操作スキルを修得可能である。第3に，DBソフトウェアを操作する際に，SQLを使用せずにデータの入力や検索が容易にできる。第4に，日本語の正しい表示や長文入力が可能である。第5に，データの入力フォームやレポート作成機能が，ひじょうに柔軟で強力である。

(2)DB_CGSの学校現場での有効性に関して，関東圏の現職教員を対象に，アンケート形式の試用評価を行う。

4. 研究成果

(1)DB_CGSポータル

DB_CGSは，いじめ防対法に関する総合的な情報を蓄積できるように，図1のような構成となっている。具体的には，以下の通りである。

①DB_CGS Portal

DB_CGS Portalは，EdgeやFirefoxなど日常使用しているWebブラウザから呼び出すようになっている。

②A：Act

いじめ防止関係法令を，PDFで表示する。いじめ防対法，国いじめ防止基本方針，地方いじめ防止基本方針，学校いじめ防止基本方針である。法令や基本方針に準拠した対応が求められるため，必要に応じてPDFで表示する。

③O：Organization

学校内のいじめ防止対策組織，学外がいじめ防止対策連絡協議会，学校警察連絡協議会などの構成員名簿を，PDFで表示する。

④P：Prevention

教科・特別活動・総合的な学習の時間等で実施されるいじめ防止教育プログラムの情報が蓄積される。主に，学習指導案を閲覧することができる。これは，桐DBで操作を行う。

⑤E：Early Identification

いじめの早期発見のためのアンケートの結果情報である。今回は、『Σ（シグマ）教育相談のための総合調査』（八並・船岡・中田，2016）を活用している。同調査結果は，CDで提供され，個人票・学級一覧・学年状況

などを帳票としてフィードバックされる。個人別の結果は、附属CDから独自DBを活用して検索すると、PDFで該当者の情報が表示される。

⑥ I : Intervention

いじめの早期解決や重大事態の対処などのチーム援助介入情報である。いじめ事案のレポート、アセスメント情報、個別援助計画、モニタリング情報などの検索、表示が可能である。

DB_CGSの表示は、図2のようにノートPCのCドライブに格納されているDB_CGS.htmlファイルを、ブラウザであるFirefoxから読み込む。各コンテンツは、タイル状に配置しており、該当タイルをマウスでクリックするとDBやPDFが呼び出される。

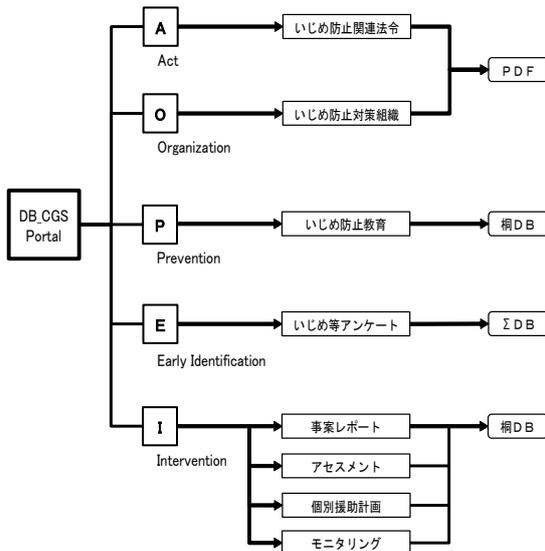


図1 DB_CGSポータルの構成



図2 DB_CGSポータルの表示画面

(2)DB_CGSのセキュリティ対策

DB_CGSのようなデータベースは、高度の守秘事項や個人情報を扱うため、高いセキュリティが求められる。DB_CGSでは、二重のセキュリティ対策をとっている。

本研究では、NADSOFT社製の「BLIND FOLDER PREMIUM」(無料ダウンロード版)を使用し、DB_CGS専用のノートPCのハードディスクに、暗号化された仮想ドライ

ブをマウントして使用する。同ソフトは、暗号化された仮想ドライブに対して、図3のようにエクスプローラなどのファイラーで、ファイルの読み書きを行うことができる。また、ログによって、使用記録を確認できる。



図3 仮想ドライブの管理画面

また、桐DBへのアクセスは、同DBに備わっている「利用者コード」というセキュリティ機能を用いている。利用者コードを入力しなければ、桐へのアクセス拒否されるようになっている。図4は、利用者コードの入力画面である。

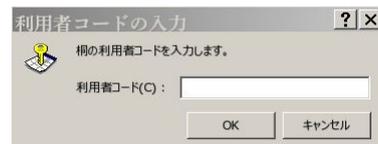


図4 利用者コードの入力画面

(3)DB_CGSの基幹DB

DB_CGSの基幹DBの概要は、以下の通りである。

①いじめ防止教育DB

いじめ防止教育フォーム画面は、図5のような構成である。「区分」では、ドロップダウンメニューから、「教科・道徳・特活・総合・その他」のいずれかを選択入力できる。「作成年月日」は、カレンダーから年月日を指定して、自動入力ができる。その他の「作成組織名」・「ファイル名」・「パス名」は、直接入力である。



図5 いじめ防止教育DB

いじめ防止教育で使用了学習指導案は、「ファイル名」の右隣の「表示」ボタンをクリックするとPDFビューアが起動し、別

ウィンドウで表示される。

② 事案概要DB

いじめ事案概要は、図2の「Outline 事案概要」タイトルをマウスでクリックすると、桐が連動して図6が起動する。いじめ事案概要報告は、いじめ事案概要報告（図6）、同概要の概要報告書DB（図7）、いじめ被害児童生徒DB（図8）、いじめ加害児童生徒DB、事情聴取記録DBから構成される。



図6 いじめ事案概要報告

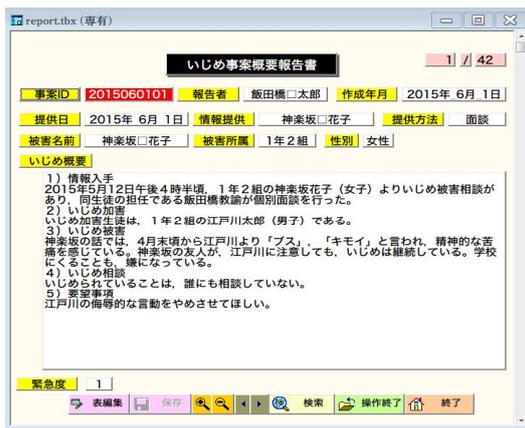


図7 いじめ概要報告書DB



図8 被害児童生徒DB

③ 事情聴取DBおよび証拠画像DB

事情聴取DBは、図9である。図10は、

証拠画像DBである。証拠は、デジタルカメラで撮影された画像ファイルやPDFを、表示できる。



図9 事情聴取DB



図10 証拠画像DB

④ チーム援助シートDB

チーム援助シートDBの構成は、図11の通りである。構成上は、大きく2つの情報を内包している。

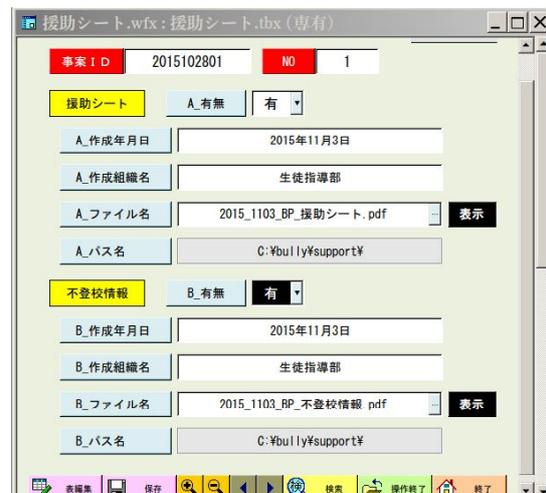


図11 チーム援助シートDB

第1は、「援助シート」である。これは、チーム援助シートが格納されている。この援助

シートは、石隈・田村式援助シート標準版（石隈・田村，2003）のPDFである。第2は、「不登校情報」である。いじめが原因で不登校となった児童生徒の児童生徒理解・教育支援シート（文部科学省，2016）が、PDFで格納されている。

⑤チーム援助モニタリングDB

チーム援助モニタリングDBは、図12のような構成である。

具体的には、「事案ID」、「援助日」（いつ）、「援助場所」（どこで）、「援助者」（誰が）、「援助対象」（誰に）、「援助内容」（何をした）、「応答行為」（どう応答した）、「備考」から構成される。

図12 チーム援助モニタリングDB

(4)DB_CGSの試用評価

DB_CGSの学校現場での有効性を検討するために、現職教員による試用評価を行った。対象は、関東圏の中学校ならびに高等学校教員、それぞれ5名である。教職経験は、20年以上のベテランである。

2016年8月に、DB_CGSをインストールしたノートPCとプロジェクタを使用して、DB_CGSの演示ならびに対象者による操作体験を実施した。その後、DB_CGSに関する試用評価を実施した。DB_CGSの試用評価項目は、10項目から構成し、5段階評価となっている。5点に近くずくほど、当該評価項目に関して肯定的な評価となる。

評価結果は、以下の通りである。質問項目の後の括弧内の少数は、中学校教員の平均値・高等学校教員の平均値・全体の平均値の順で示している。

Q 1 : 「DB_CGSは、いじめ防止対策推進法に基づく生徒指導業務に役立つと思う。」
(4.8・4.6・4.7)

Q 2 : 「いじめの防止、早期発見・解決、重大事態への対処において、DB_CGSは必要だと思う。」
(4.8・4.8・4.8)

Q 3 : 「データベースに関する専門的知識のない教員であっても、DB_CGSであれば容易に操作技術を

修得できると思う。」

(4.8・4.6・4.7)

Q 4 : 「DB_CGSの各種データベースの入力・修正・保存・検索等の操作性は高いと思う。」

(4.8・4.8・4.8)

Q 5 : 「DB_CGSを活用することで、いじめ防止対策委員会での情報共有やケース会議が効率的に行えると思う。」

(4.8・4.8・4.8)

Q 6 : 「DB_CGSを活用することで、いじめ問題対策連絡協議会や学警連等での情報提供や共通理解の促進が期待できると思う。」

(4.6・4.6・4.6)

Q 7 : 「DB_CGSを活用することで、校内でのチーム援助を効率的かつ効果的に行えると思う。」

(4.8・4.6・4.7)

Q 8 : 「DB_CGSは、関係機関等と連携したサポートチームによる組織的な援助に際して、有効だと思う。」

(4.6・4.6・4.6)

Q 9 : 「DB_CGSは、生徒指導のPDCAサイクルの改善に役立つと思う。」

(4.8・4.4・4.6)

Q 10 : 「DB_CGSのセキュリティは高く、いじめ情報の漏洩を防ぐことができると思う。」

(4.8・4.8・4.8)

各質問項目ともに、全体の平均値は4.5点以上であったので、DB_CGSは高い評価を得られた。特に、Q 2 の必要性、Q 4 の操作性、Q 5 の実用性、Q 10 の機密性は、平均値4.8とひじょうに高い評価であった。

以上の点から、DB_CGSの学校現場での活用については、期待できると思われる。ただし、導入に際しては、商用ソフトの購入のための財源の確保、DB_CGS環境の構築・運用に関するマニュアル作成や校内研修の実施などの実務上の課題が残っている。

<引用文献>

- ①毎日新聞 2015 岩手中2自殺：生活ノートに記された気持ち・・・担任報告せず 2015年7月9日11時配信 (2015年7月13日確認) <http://mainichi.jp/select/news/20150709k0000m040161000c.html>
- ②石隈利紀・田村節子 2003 石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門 学校心理学・実践編 図書文化
- ③文部科学省 2013 いじめ防止対策推進法
- ④文部科学省 2014 平成25年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について

- ⑤文部科学省 2016 不登校児童生徒への支援に関する最終報告 児童生徒理解・教育支援シート（試案）
- ⑥瀬戸則夫・小野田正樹 2014 いじめ防止対策推進法と、学校－子ども－保護者関係の変容 季刊教育法 No.182 5-23
- ⑦八並光俊監修 船岡三郎・中田洋子編 2016 Σ（シグマ）教育相談のための総合調査 西日本心理センター

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計2件）

- ①八並光俊，データベース・カウンセリング&ガイダンスシステムの開発（Ⅰ）－いじめ防止対策推進法に基づくいじめ対応データベース－，東京理科大学紀要（教養編），査読有，vol.48，2016，1-13
- ②八並光俊，データベース・カウンセリング&ガイダンスシステムの開発（Ⅱ）－いじめ防止教育及び介入データベースの開発と試用評価－，東京理科大学紀要（教養編），査読有，vol.49，2017，149-161

〔学会発表〕（計2件）

- ①八並光俊，チーム援助によるいじめ対応データベース・システムの開発，日本生徒指導学会第16回大会，口頭発表，群馬大学教育学部，2015
- ②八並光俊，いじめ防止対策組織用データベースを用いたケース会議の効率化に関する基礎的研究，日本生徒指導学会第17回大会，口頭発表，文教大学湘南キャンパス，2016

6. 研究組織

(1) 研究代表者

八並 光俊 (YATSUNAMI Mitsutoshi)
東京理科大学・教職教育センター・教授
研究者番号：70210284